

FINA 男子水球ワールドリーグ2008 アジア オセアニア ラウンド

1日目

第一試合

1st Round Game No. 1 JPN vs IRI

日本の初戦はワールドリーグ初参戦のイラン。出だしの数分間は無得点のままこう着状態が続くが、退水中に青柳勸が先制点を取り、その後、佐藤太一も得点し、第1ピリオドを2-0で終えた。第2ピリオドに入り、イランは日本のカウンター攻撃を数度しのぎ、ペナルティーと退水のチャンスに2得点した。反面、日本は1点のみに抑えられ、前半を4-2で折り返した。第3ピリオドに入り、日本はサブリッチ監督の指示で落ち着きを取り戻し、イランを無得点に抑える一方で、4点を入れ、このピリオドを7-2で終えた。第4ピリオドに入り、日本は経験を積ませる為に若手を投入したため、2得点で終わり、日本が9-2で勝利した。

第二試合

1st Round Game No.2 NZL vs AUS

オーストラリアは強力なディフェンスでニュージーランドを無得点に抑えた。センターに対するアウトマークからことごとくパスをカットし、カウンター攻撃でほぼ全得点をたたき出した。終わってみれば25-0で圧勝した。

第三試合

1st Round Game No.3 CHN vs IRI

中国が4番・余利のバックハンドシュートによる先制点を皮切りに、センター、退水、カウンター、中距離などの多彩な攻撃でイランを圧倒し、第1ピリオドだけで8-0と完全に主導権を握った。第2ピリオド以降は中国がディフェンス陣形をプレスからゾーンに変えたため、イランにもシュートチャンスが増えたものの、2得点止まりだった。中国はカウンター攻撃からセット攻撃に切り替えたため、大量点に結びつかず、最終的に18-3で勝利した。

第四試合

1st Round Game No.4 JPN vs AUS

オーストラリアのセンターバック R・ムーディが連続退水となり、試合の出だしは日本にとって優位になるかのように見えた。青柳勸が退水から先制点を入れたものの、オーストラリアも中距離から豪快なシュート2本決め、第1ピリオドを1-2で終えた。第2ピリオドの日本は苦しい展開を余儀なくされ、オーストラリアの強力ディフェンスでシュートはわずか2本に抑えられた。それに対してオーストラリアは4点を入れ、前半を1-6で終える形となった。後半に入り、退水から2点、青柳勸が中距離から2点を入れたものの、オーストラリアも2点を入れ、最終的に日本は5-10で敗れた。

2日目

第一試合

1st Round Game No.5 CHN vs NZL

開始早々 ニュージーランドの退水による、中国の4番・余利君(L.Yu)が得点したのをきっかけに、激しい攻防が続き、両者退水が起きるなど白熱した展開となった。両チーム共にパワープレー(退水者)が多く、チャンスを確実にものにした中国が13-5でニュージーランドに勝利した。

第二試合

1st Round Game No.6 AUS vs IRI

試合開始当初から得点力のあるオーストラリアが得点を重ね、リードを広げていく。一方、イランも13番M.Jafriのふいをついた5mフリースローシュートが決まり、ゴールキーパーS.Abdi Hanjaniの好セーブも幾度か見られたが、波に乗り切れず18-2でオーストラリアが勝利した。

第三試合

1st Round Game No.7 NZL vs IRI

開始25秒でイランの得点源11秒Y.Soltaniが先制点が挙げた後、ニュージーランドがたて続けに点を取り、逆転。得点差が開いてしまうのかというところで、1ピリオド、ラスト17秒にイラン7番K.Afshariがペナルティー・シュートで得点。その後、両者一步も譲らず、一進一退の攻防が続いた。ラストピリオドになり、ニュージーランドが退水を確実に決め、ラスト二分ではこの試合最多得点のニュージーランド4番J.Rossがさらに二得点を挙げ、17-11でニュージーランドが今大会一勝目を挙げた。

第四試合

1st Round Game No.8 JPN vs CHN

試合開始から激しい攻防が続き、両者一步も譲らず約5分30秒もの間ラリーが続いた。先制点を中国に許した日本は、速攻攻撃で5番伊禮寛が得点したが、1ピリオドラスト2秒で中国5番李俊(J.Li)のフローティングシュートにより、リードを許してしまう。第2ピリオドに日本8番長沼敦がニドルシュートを決め、同点に追いつく。しかし、その直後中国にたて続けに2点の得点を許したが、日本6番染谷将利が速攻攻撃から退水を誘発し、キャプテン9番佐藤太一が得点する。第3ピリオド、日本が再三退水を誘発するが、相手DFの高いハンドアップに阻まれ、チャンスを生かせず4-7で3ピリオド終了。迎えた第4ピリオド、退水者2名出した中国から8番長沼敦がこぼれ球を押し込み、一点を返す。その直後中国のパワープレーで得点され、8-5。2番青柳勸が右サイドの角度のないところから得点し、追い上げるが、残り時間が少ないところで退水を奪われ、得点を許し6-9で1ラウンド目は中国に勝ち点を奪われた。

3 日目

第一試合

1st Round Game No.9 CHN vs AUS

オーストラリアが先制し、中国は懸命に粘るが同点にはなるもののオーストラリアはリードをゆずらない。第2ピリオドに入り、オーストラリア8番S. Mcgregorが速攻で2得点后、勢いづいたオーストラリアが次々と得点し、退水のチャンスを決めきれない中国に一気に点差をつける。後半に入ってもオーストラリアの勢いは劣るえず、14-6で勝利した。

第二試合

1st Round Game No.10 NZL vs JPN

日本8番長沼敦が退水を確実に決め、先制点を挙げる。その後、ニュージーランド9番J. Wareに退水時に得点を許し同点となるが、第1ピリオド残り時間26秒で日本5番若松弘樹が速攻で得点し、再びリードを奪う。第2ピリオド開始2分、日本6番染谷将利が退水を決めた後、日本1番大島仁の高セイブが続き、さらには日本5番若松弘樹のロングシュートが決まり、波に乗る。日本は連続5得点を挙げ、ニュージーランドに対しリードを広げる。後半退水のチャンスを決めきれないニュージーランドに対し、泳力で勝る日本の怒濤の速攻が次々と決まり、14-7でニュージーランドに勝利した。

4 日目

第一試合

2nd Round Game No.1 CHN vs IRI

開始2分、中国キャプテンの2番キャプテンZ. Hanが左サイドから先制点を挙げる。両チーム共にゴール前のDFが徹底しており、ミドルシュートによる得点が目立つて展開となる。泳ぎで勝る中国は、イランのDFが整う前に退水を奪い、確実に得点を重ねリードを広げていく。第4ピリオドに入っても中国の勢いは劣るえず、16-2で勝利した。

第二試合

2nd Round Game No.2 JPN vs NZL

第一ピリオド開始早々日本のキャプテン9番佐藤太一が退水のこうげきから先制点を奪い取った。第2ピリオド日本7番志水祐介が自ら奪った退水で得点を挙げ、ニュージーランドに2点差をつける。一方ニュージーランドも第一ラウンド得点ランキング第1位の4番J. Rossが得点し、一進一退の攻防となる。第3ピリオドに入り、退水を守っての速攻を日本8番長沼敦と7番志水祐介がたて続けに得点し、退水を決めきれないニュージーランドに対し、チャンスを確実に決めた日本が点差を広げる。第4ピリオドに入り、泳力で勝る日本の速攻が次々と決まり、15-8で勝利を獲得した。

5 日目

第一試合

2nd Round Game No.3 NZL vs IRI

イラン 13 番 M . Jafari がフローティングシュートで先制点を挙げる。その後、ニュージーランド 5 番 J . Kayes が 1 点返すが、イラン 6 番 A . Pirozkhah の活躍により、一時 3 点差までリードを広げる。一方ニュージーランドも 7 番 D . Jackson がフローティングシュートで応戦するが、イランがリードを保ったまま、第 3 ペリオドを終了する。第 4 ペリオド中盤、ニュージーランドがこの試合、初リードを奪うが、イラン 12 番 A . Khani Ghahjavarestani がミドルシュートで同点にする。両者一歩も引かず、7-7 で 4 ペリオドを終了し、ペナルティーシュートアウトとなる。結果は、11-10 でニュージーランドが勝利した。

第二試合

2nd Round Game No.4 AUS vs CHN

開始 27 秒オーストラリア 6 番 A . Martin が先制点を挙げる。そこからオーストラリアの猛攻は停まらず、前半で 5 点のリードを広げる。後半に入り、勢いの劣るえないオーストラリアは、連携の取れた DF で中国に得点を許さず、19-6 で勝利した。

第三試合

2nd Round Game No.5 AUS vs IRI

現在、全勝のオーストラリアは序盤から確実に点を重ねる。一方、イランも 13 番 M . Jafari が退水からの攻撃で得点。その後もオーストラリアの猛攻は続く点差が開いても油断をみせないオーストラリアは、その後失点することはなく、速攻のチャンスを確実に決め 20-1 でイランに勝利した。

第四試合

2nd Round Game No.6 NZL vs CHN

中国 8 番 Y . Wang が退水の攻撃を確実に決め先制点を挙げる。その後、日本は退水を守りきれず中国にさらに 2 得点を許してしまう。しかし、日本のキャプテン 9 番佐藤太一が退水のチャンスを掴み得点。第 2 ペリオドは、両チーム攻撃中の反則が目立つ展開となった。日本 2 番青柳勸の得点で 1 年差とせまるが、中国 8 番 Y . Wang をはじめ退水のチャンスを確実に決めた中国に 4 点差される。後半、日本 2 番青柳勸の強烈なミドルシュートが決まり、2 点差までつめよるが、退水の攻撃の決定率で中国に一歩及ばず 11-7 と悔敗した。

6 日目

第一試合

2nd Round Game No.7 JPN vs AUS

オーストラリアキャプテン 10 番 G. Woods がフローティングからのシュートにより先制点を挙げる。その後、日本は巧みなパス回して攻撃時間を有効に使うオーストラリアの攻撃を防ぎきれず 3 点のリードをされる。日本はオーバータイム直前に速攻を仕掛けるが、逆に DF が手薄になったゴール前でオーストラリアに得点を許してしまう。中盤、日本 10 番塩田義法がミドルシュートで会場をわかすが、強豪オーストラリアには及ばず 13 - 6 で敗戦した。

第二試合

2nd Round Game No.8 CHN vs NZL

開始 26 秒中国 4 番 Z. Wu がミドルシュートで先制点を挙げる。その後、中国のミドルシュートが決まり、3 点差まで開いたが、ニュージーランドの得点源 4 番 J. Ross の活躍により、1 点差までつめよる。後半に入り、チャンスを逃がさない中国が確実に点を重ねていく。一方、ニュージーランドもこの試合 5 得点の 4 番 J. Ross が外周からの鋭いシュートで応戦するが、ワールドリーグファイナルの出場を決めた中国には悔しくも 14 - 8 で中国が勝利した。

第三試合

2nd Round Game No.9 NZL vs AUS

先制点を獲得したオーストラリアは、巧みなパス回しでディフェンスを翻ろうし、確実に点を重ねていく。一方、ニュージーランドで得点するが、オーストラリアの堅いのディフェンスから点を取ることは難しく、その後もオーストラリアの猛攻は続き、16 - 4 でニュージーランドに勝利し、今大会を全勝で終えた。

第四試合

2nd Round Game No.10 JPN vs IRI

日本 10 番 (塩田義法) が左サイドからのシュートで先制点を奪う。その後、7 番 (柳瀬彰良)、9 番キャプテン (佐藤太一) の連続得点で 3 点のリードをする。一方イランも 13 番 (M. J a f a r i) や 6 番 (A. P i i r o z k h a h) の得点で 1 点差までつめよるが、泳力でイランに勝る日本は、後半怒涛の速攻で点差を広げ、9 - 4 で今大会最終試合を勝利で収めた。

残念ながら日本は第3位

1位 オーストラリア、2位 中国が6/12～22にイタリアジェノバで開催されるFINA男子ワールドリーグスーパーファイナルに出場します。日本は、青柳・塩田・長沼の海外組トリオを含めた社会人世代に大学生・高校生を抜擢した幅広い年代幅で大会に臨んだもののオーストラリア・中国に2連敗し、第3位となりました。

ワールドリーグ出場チーム

グループA

1．アメリカ 2．モンテネグロ 3．中国 4．スペイン 5．イタリア

グループB

1．オーストラリア 2．セルビア 3．カナダ 4．ギリシャ 5．アフリカ代表